

都市・地域計画ゼミ コロナで右往左往

-contents-

2. 巻頭言
3. 学科内外の活動
4. 2019年度卒業論文
5. 2019年度卒業設計
6. 今期の卒業生、卒業証書授与式、卒業旅行
7. COVID-19、都市計画学会、4年生研究テーマ
8. 昇任、写真コンテスト佳作々品、OB・OG紹介

No.06
2020.5

URPS

URBAN & REGIONAL PLANNING Seminar.





「現代」を認識する

●不安と閉塞感

現代という時代は、難しい時代である。これほど情報化が進んでも、経済や社会の状況を「統一的」に理解し見通すことは、なかなかできない。だから、不安感が漂い、内に閉じていく現象が近年とみに多い。アメリカ、イギリスといった国家であれ、青年層から壮年層まで広がるひきこもりの個人であれ。

●現代を如何に捉えるか

そんななかでの、一冊の本。

『現代社会はどこに向かうのか -高原の見晴らしを切り開くこと-』と題する本は、こうした閉塞感の強い現代の状況を人類史的視点と各種のデータから説明し、これから行き着こうとしている先、それがどれくらいの時間を要するかは別として、それを示唆している。

キーとなる概念は、S字の形を描き、資源・環境容量の限界付近で収束していくロジスティック曲線である。著者で社会学者である見田宗介は、古代ギリシャ以降に貨幣経済の発生と都市化の緩やかな進捗があり、産業革命（第一の巨大な曲がり角）以降は爆発的に加速し、現代は高度経済成長期を過ぎて史上初めての減速に転じる変曲点を通過し、第二の巨大な曲がり角に入った時期と捉える。そして、現代社会の矛盾に満ちた現象を、高度成長をなおも追求しようとする慣性の力と、曲がり角の先にある安定平衡期に軟着陸しようとする力との「拮抗の状態」として、統一的に把握することができるとしている。この認識をベースに、環境問題、経済問題、近代家父長制家族の解体や人々の保守化の現象等がひとつの枠組みをもって論じられる。アキハバラの無差別殺傷事件や阪神・淡路大震災以降に急速に広まったボランティア活動が、この文脈の中で明瞭な位置づけをもって立ち現れてくる。とりわけ、現実空間と電子空間との境界が分かりづらくなり彷徨う現代の若者の、その反動としての生きるリアリティを渴望する姿の描写認識は、ナルホドと思わざるを得ない。今話題のSDGsでさえも、この枠組みでの理解が有用であろう。

●答えは出さない

なお、この本は認識の仕方を示すが、どう行動すればよいかといった答えらしきものは示さない。しかし、読了後は何故かしら不安感が薄れ、読者自身がその認識を支えに自分のできることをすれば良いという安心感が生まれる。

そうした点で、AIの功績で得るものとは明らかに違う。人工知能は答えを示すが、その理由は示さないからだ。

今回の巻頭言は、図書館への図書推薦文をもとに再構成したものです。

私の一日

子供の在留カードを取得するため、いつも常備している花粉症対策のマスクを着用して久しぶりにお出かけした。在住している由利本荘市から秋田市へ。国道7号をしぼらく走ったら、いつもと違う風景に気がついた。道路の幅が広くなり、海も高いところから見えているように感じた。あっ！ずっと整備していた「下浜道路」が開通されたのだ！

用事のある仙台入国管理局秋田出張所は秋田県庁の近くの秋田合同庁舎の5階にある。秋田に来てからの3年間、自分や家族のビザ関係の手続きを行うため、秋田合同庁舎に10回ほど来たことがある。今回も迷わずに秋田合同庁舎のちょっと暗い玄関に入り、エレベーターに乗った。エレベーターのドアが閉まる瞬間、外から急いで飛び込んできた男性が一人いた。もし彼は新型コロナウイルスの無症状感染者だったらと頭の中に一瞬現れ、鳥肌も立った。彼はマスクを着用していて、頑張って呼吸を整えるようだったが、私は無意識的に最大限に呼吸を止めるようにした。

自分が失礼なことをやってしまったのに気がついたら、すでに5階に到着。彼は何階で降りたのは気がつかなかった。その後、子供の在留カードを申請する手続きを行っていても、帰り道に綺麗な夕日を見かけてもずっとイライラしていた。知らない人をそんなふうに疑うのに恥ずかしくて仕方がないが、もう知らない人と同じ密閉空間の中の空気を吸われないかとずっと頭の中に問いた。

その日は私の極普通の一日はずだったのに、第二子の出産のため、今年の1月末から産休に入り、ある意味のひきこもり生活を過ごしている私は、新型コロナウイルスの感染拡大に影響を最小限に抑えたと自信があったのに、その日の問いに対して今でも答えられない。その日の私は過剰反応したかなと後で考えたが、新型コロナウイルスの流行から生じた知らない人への不信感に悲しい。

中国の武漢市に在住する女性作家の方方氏は武漢の封鎖生活を日記としてSNSで毎日発表していた。その日記の英文翻訳は「武漢日記」として出版される予定もある。今回は巻頭言のところを借りて、自分の一日も記してみた。新型コロナウイルスの大流行が終わる日が来る際に、自分はその日からの悲しさをずっと覚えているのか、あるいはその日に初めて走った「下浜サンセットロード」に見かけた夕日しか覚えないであろう。

☆今回のN.Lは通算すると23号目です。

表紙の写真「日本平夢テラス」撮影者：関根萌
静岡県に昨年11月に出来たばかりの展望施設です。
テラスデッキでは、写真の富士山も含め、静岡市
を360度見渡すことが出来ました。

「完成」は安堵 —茶室 山角庵にて—

やしま冬まつりは毎年2月上旬に行われる。イベントである茶会の場として、私たちは仮設の茶室兼休憩スペースを設計・施工した。学生の設計メンバーは環境学グループ2人、材料学グループと構造学グループから1人ずつの計4人。当初の予定では固定観念に縛られて、環境・材料・構造の各自の専門的知識をつぎはぎのように合わせて“完成”させようと考えていたが、結果的にはそれぞれの個性が際立ったミックスジュースのような設計ができたと自負している。現地調査・話し合いを重ねるのはもちろんのこと、各自が設計要素を見つけて、地域にふさわしい空間を考え設計した。基本設計が決まったのは12月下旬、メンバーそれぞれが考えた4つの設計案の特徴的な部分を1つの案まとめた。しかし最も大変だったのはここから実施設計へと持っていくことだった。切欠きや貫の詳細部分や現地での施工性・快適さ、茶室としての型をクリアしていくことが非常に苦労した。吹雪の中での組立作業が終わったころには皆ボロボロになって、『完成』したことを喜ぶ気力すら無かった。祭当日の茶室で茶を嗜むお客さん、休憩スペースで佇む家族、写真を撮る人、批評する人、驚く人、笑う人、空間が地域に馴染んでいくのを感じて、私は「完成」を喜んだ。(追伸)メンバーの井上君、及川君、全君、指導教員の板垣教授、祭関係者の方々に感佩の意を表します。(環境計画学研究グループ 修士2年 相方健次)



非利用価値を評価する難しさ

私は自身の研究テーマとして「歴史的街並みにおける市民と来街者のちがいによる経済的価値に関する研究」と設定して、その研究方法について調べてきた。ここでの経済価値とは非利用価値も含めた意味で用いているが、非利用価値は数量的に評価するのが難しい。そこで使われる方法としてあるのがCVM(仮想評価法)である。CVMの特徴として、評価が難しい非利用価値も金額として算出し評価でき、アンケートも比較的容易に回答できるという利点がある。しかしその結果、バイアスが生じて正確なデータが得られないこともある。そうならないためにもプレテストを一度行い、調整を重ね、本テストを行う必要がある。また分析方法も難しく、今後はCVMを扱えるよう知識を身につけていきたい。

(4年 佐藤桂一)



創造工房プチリニューアル

「自分たちの手で創造工房を使いやすく楽しいものにしませんか？」という大塚先生からのメールで建築学科の有志8人が集まり、創造工房をリニューアルするというのが計画の始まりでした。大学内のリサーチをし、要素を創造工房に引き込んでレイアウトを考えるということから、得られた要素はル・コルビュジェでした。大学内にはル・コルビュジェと思われるデザイン(創造工房・実験棟・学部棟のドアの色、ラーニングコモンズの穴のような色とりどりの窓など)がたくさん見受けられ、私たちはこのデザインを引き込むことに決めました。

結果として、創造工房にたくさん色やデザインを引き込み、使いたくなるようなレイアウトになりました。後輩が建築を学ぶ場となれば幸いです。そして、創造工房に足を運び、ル・コルビュジェのデザインを探してみてください。

(都市・建築計画学研究グループ 込山ゼミ4年 笹恭輔)



菅原卓矢 線引き広域都市計画区域からの離脱・非線引き化に伴う土地利用規制のあり方に関する研究

鎌田将輝 秋田県内の移住促進事業における取り組みの実態に関する研究

「線引き広域都市計画区域からの離脱・非線引き化に伴う土地利用規制のあり方に関する研究」

菅原卓矢

1. 研究の背景

我が国の都市計画では、広域の視点の必要性が謳われ、行政区域を超えた広域的な見地からコントロールを図る広域都市計画区域（以下、広域都計区域）が定められた。広域都計区域形から離脱・再編へと至った自治体もいくつか見られる。潟上市は人口減少への対応や都計区域外の開発コントロールの必要性等から線引き広域都計区域からの離脱、非線引き化を望んだ。しかし、隣接市との境に主要な市街地の一つが形成されていることが原因となり、広域主体である秋田県は再編を認めなかった。

2. 目的

本研究の目的は、線引き広域都計区域からの離脱・非線引き化に関して、潟上市が想定する再編後の土地利用規制と既に離脱・非線引き化を行なった都市の土地利用規制を比較し、その知見を得ることである。

3. 研究の方法

始めに、潟上市の都市計画等の指定状況等と市の抱える課題の整理を行う。そして、秋田都市計画担当者勉強会（以下、勉強会）の議事録をもとに、課題に対応しうる都計区域の見直しと見直し後の土地利用規制等の各対応案毎に、当該市である潟上市、広域都計区域の隣接母都市である秋田市、広域主体である秋田県の各視点から論点の抽出を行い、潟上市の要望の妥当性を検討する。

加えて、2008年から2017年の間に離脱・非線引き化を行なった4市への文献及びヒアリング調査を行い、離脱理由や離脱後の土地利用規制等の整理から潟上市との類似点や相違点を比較検討する。

その後、潟上市の線引き広域都計区域からの離脱・非線引き化をする上での土地利用規制のあり方を考察する。

4. 秋田都市計画担当者勉強会について

勉強会では潟上市が解決すべき課題として以下の4つが挙げられ、主な議題として会が進められた。

- ①市内に都市計画区域と区域外が並存することによる「土地利用の不均衡」と「規制格差」の是正
- ②市街化区域内農地にかかる宅地並み課税の負担軽減
- ③広域都市計画区域の一体性の確保
- ④潟上市のとるべき土地利用規制の対応

5. 離脱・非線引き化型の事例調査

前項で整理した対応案の中で、潟上市の要望に近いものは離脱・非線引き化型の対応案である。そこで、離脱・非線引き化を行なった事例である本巢市、伊豆市、能美市、南城市への調査を行ない、その結果を表1に記す。

6. まとめ

これまでの調査から、潟上市が離脱・非線引き化を行うためには以下の条件を満たすことが必要である。

- ・連担市街地への線引き並みの土地利用規制
- ・現都計区域外への開発コントロールとなる土地利用規制
- ・白地化地域への強い開発規制

また、伊豆市の事例から、広域での視点が求められる現代の都市計画において、離脱後の水平的連携の場を作るなどの広域性の確保を可能にすることが、より良い離脱・再編となる可能性が示された。

表1. 離脱・再編型の土地利用規制対応を行なった都市の概要と離脱後の土地利用規制

	各市の概要			離脱後の土地利用規制		
	合併の概要	離脱前の都市計画区域	離脱理由	用途地域	特定用途制限地域	その他
本巢市 (岐阜県)	2004年2月 (本巢市・真正町・糸貫町・根尾村)	岐阜都市計画区域 母都市：岐阜市 構成市町村：4市3町 離脱時期：2010年8月	岐阜市への私鉄が廃線となり、岐阜市との関係が変化したことに加え、区域外出った場所に大型商業施設が立地したことで市内で行動する需要が高まったため離脱に至った。	○既存の用途地域は継続 ・都市計画区域外で開発が行われた地区などに追加指定	・幹線道路沿道地区Ⅰ型 ・幹線道路沿道地区Ⅱ型 ・産業誘導地区 ○田園居住地区	・開発許可の引き下げ
伊豆市 (静岡県)	2004年4月 (修善寺町・土肥町・天城湯ヶ島町・中伊豆町)	田方広域都市計画区域 母都市：伊豆の国市 構成市町村：2市1町 離脱時期：2017年3月	合併により、市内に区域外となる地域が生じたことに加え、著しい人口減少への対策が必要であったため離脱に至った。	○既存の用途地域は継続 ・用途地域の追加指定 (都計区域の拡大に合わせてさらに追加指定する予定)	・幹線道路沿道地区 ○里山環境共生地区	・開発許可の引き下げ ○景観まちづくり条例・計画 ・水害に備えた土地利用条例 ○離脱後の定期的な伊豆の国市、函南町との協議
能美市 (石川県)	2005年2月 (根上町・寺井町・辰口町)	小松能美都市計画区 (辰口都市計画区域)※並存 母都市：小松市 構成市町村：2市 離脱時期：2013年8月	合併の影響から市内に2つの都市区域が並存しており、それを解消するため離脱に至った。	○既存の用途地域は継続 ・再編以前から非線引きであった地区への用途地域の導入	○田園地区 ・里山地域 ・幹線道路沿線地域	・開発許可の引き下げ ○開発可能区域と不可能区域の指定
南城市 (沖縄県)	2006年1月 (佐敷町・知念村・玉城村・大里村)	那覇広域都市計画区域 母都市：那覇市 構成市町村：6市3町2村 離脱時期：2010年8月	以前は区域に指定されたほとんどが市街化調整区域であったため、人口は増加傾向にも関わらず開発ができなかったため、離脱に至った。	○既存の用途地域は継続 ・市街化調整区域であった地区等に住居系の用途を追加指定	・居住環境保全地区 ・リゾート環境地区 ・幹線道路沿道地区農村型 ・幹線道路沿道地区市街地型 ・産業環境地区	・開発許可の引き下げ ・風致地区

○離脱に効果的に働いたと考えられるもの



小林紗菜 間隙から培う未来 - 富士駅前商店街の再生計画 -

岡野美月 向きあい、見つめる - 社会への復帰を支える居場所の提案 -

「間隙から培う未来 - 富士駅前商店街の再生計画 -」

小林紗菜

1. はじめに

近年の郊外への大規模商業施設の進出やeコマースの普及により、地方都市の商店街は中心市街地にも関わらず、シャッター通りとなっている現状が見られる。このような状況に対して、より豊かな環境を持続していくためには、地域住民が主体となり、まちをマネジメントしていく必要がある。そこで、本計画は類似する状況下である、富士市の富士本町商店街を対象に新たな商店街づくりを行うための施設を計画し、人と街を育成し、持続する商店街を目指す。

2. 提案内容

富士本町商店街再生へのまちづくりプログラムは、主力となる商店街周辺地域の人たち（巻き込む側）と、来街者（巻き込まれる側）に分け、4段階で取り組んでいく。



図1 商店街再生プログラム

3. 敷地

本計画の敷地は、前期調査した防火建築帯・防災建築街区の内4カ所を選定し、老朽化した建物を徐々に更新していく。

4. 設計概要

デザインコンセプトは「ずらす」ことで立体感を出し、人が通れる間隙を作ることにした。

Step.1の集まり・考える場は、地域住民が気軽に立ち寄れるよう、間隙は通り土間し通り抜けできるようにした。また、互いの活動が

見えるよう土間に向けて大きな開口部を設け、ずらしてできた空間には屋根をかけ歩道から入りやすいようにした。

Step.2の出会い・知る場である広場はstep.1のワークショップ室とイベント広場が連携出来るよう、中央に大きなイベントが行える広いスペースを設け、その周りに歩行者が少し座って休憩できるような大きなデッキを配置した。

Step.3の挑戦・参加する場では、間隙はギャラリーとし、アトリエやシェアキッチン利用者の作品や商品などが展示できる空間とした。内部は互いの活動が見えるよう吹き抜けやレベル差を利用した。

Step.4暮らす場は、1階店舗の他者利用ができるよう内部階段でなく、間隙に階段を設け、住民のご近所付き合いの場となるよう、各住居のバルコニーは間隙に面するように配置したり、店舗の売り場部分を一部隙間に向け露出させたりした。また、歩道側に庭を設け、誰でも立ち寄れるオープンガーデンとした。



図2 多様な効果を生む間隙 (左: 通り土間の間隙 右: ご近所づきあいの間隙)

5. まとめ

本計画では、人と街を育成し持続する商店街を目指し、理想の一例として新たな商店街づくりを担っていく プログラムや施設の提案をした。本計画の施設が起点となり、地域住民が自らまちを培い、商店街に賑わいを取り戻すことを望んだ。



図3 暮らす場 外観

今期の卒業生



岡野 美月

- 就職先
東京都住宅公社
- ゼミ活動の思い出
石脇浴衣まつり

秋田県内で好きな場所
平福記念美術館

コメント
お世話になりました。
ありがとうございました！



鎌田 将輝

- 就職先
横手建設株式会社
- ゼミ活動の思い出
卒業研究で楽しく研究
できたこと

秋田県内で好きな場所
秋田県立野球場

コメント
これまでお世話になった
先生方、先輩、同級生と
後輩のみなさんへ
ありがとうございました！

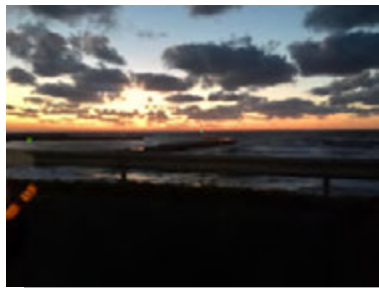


小林 紗菜

- 就職先
第一建設株式会社
ゼミ活動の思い出
- 石脇イベントでのイン
スタレーション準備

秋田県内で好きな場所
由利本荘の海岸線沿い

コメント
今までありがとうございました。とても楽
しい4年間でした！！



(写真は確か西目あたり)夕日がとってもきれいで大好きです。



菅原 卓矢

- 就職先
株式会社オオバ
- ゼミ活動の思い出
初夏合宿楽しかった！

秋田県内で好きな場所
ドッピオコーヒーファ
クトリー

コメント
様々な経験ができる場
でした。



卒業証書授与式

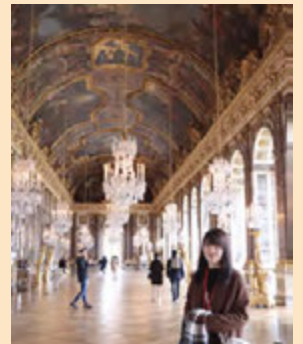
3月24日に予定されていた令和元年度卒業式は新型コロナウイルス感染予防のため中止となり、各学科で小規模な卒業証書授与式が行われました。各学科での授与式は時間で言うとおっという間で、逆に思い出深かったです。4月からそれぞれ新たな場所で精一杯頑張ります！



(2019年度卒業 鎌田将輝)

卒業旅行 in フランス

2月下旬、5泊7日でフランス・パリへ行きました。旅行中はエッフェル塔や凱旋門等の主要な観光地を訪れ、中でもヴェルサイユ宮殿・ガラスの間の装飾美に感動しました。パリ市内はどれも昔の街並みが広がっており、「パリ市の面積は山手線とほぼ同じ」という話から、綺麗な街並みがそれだけ広い地域で保存されていることが印象的でした。



(2019年度卒業 岡野美月)



COVID-19 の恐怖と影響

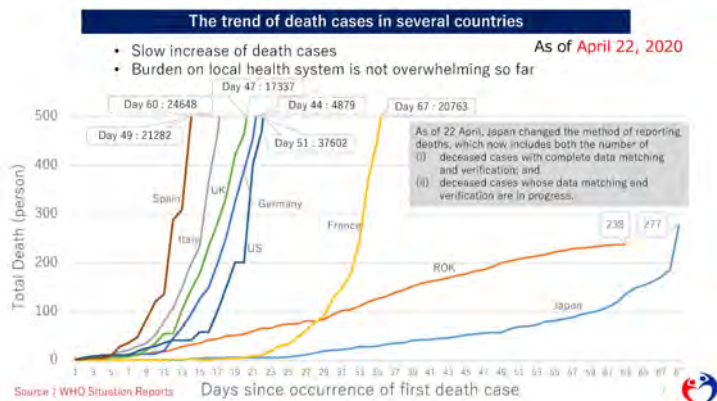


2019年12月、中国の武漢で発生した新型コロナウイルスによる感染は、中国はもとより世界に広まった。日本では、2月3日に横浜に来たクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号で感染712人、7人の死亡、その他を加えると計950人、33人の死亡が確認された(3/20時点)。

WHOの事務局長は、世界的流行にあたるパンデミックの状態と認識を示し、3月24日にはTokyo2020オリンピックを来年7月まで延期、コメディアン志村けんの感染死亡と続いた。学校の休校措置により子どもの世話等で休んだ際の休業補償、新型コロナの影響を受けた中小企業等に対する無利子貸付の対応が決まったが、実効性は不明。国内での感染がさらに広まったため、法に基づく「緊急事態宣言」を7都府県に4月7日発令、その後非常に非常事態宣言は全国適用となった。秋田県の佐竹知事は、4月16日に県境をまたぐ移動の自粛、店舗の休業・時短措置の要請、県立学校等の休業要請等の緊急事態措置をとった。

本学においては、卒業式・入学式の式典は中止となり、授業開始も2度にわたり延期となり5月11日より遠隔方式を基本にすることとなった。

(4/29 原稿作成 山口邦雄 教授)



WHOのデータに基づいて厚労省が発表した資料
「Updates on COVID-19 in Japan」より



都計学会東北支部発表会 in Tohoku Univ.



今年も、都市計画学会東北支部の研究発表会に当ゼミ学生2名とともに参加してきました。鎌田さんと菅原さんはB会場第一セッションでの連続発表で、東北にいる都市計画系の先生方を前に堂々たる発表。それぞれ現代的テーマで好評を得つつ、質問にも臆することなくディスカッションしていました。とりわけ菅原さんは、就職先の上司となるだろう方も参加しての発表会場でしたので、色々な意味で良かったです。コロナウイルス問題で学会の懇親会は中止となりましたが、その代わりに仙台在住OBの和賀さん・桂さんとともに、国分町の夜を楽しみました。

(山口邦雄 教授)



4年生研究テーマ

- 上神田 純哉 「地方都市におけるエリアマネジメントの事業性に関する研究」
- 佐藤 桂一 「歴史的街並みにおける市民と来街者の違いにおける経済的価値に関する研究
-青森県黒石市こみせ通りを対象として-
- 関根 萌 「重要伝統的建造物群保存地区内の空き家保存に係わる活動の実態と
住民等組織の役割に関する研究」
- 樋口 真由 「リニア中央新幹線駅設置に伴う将来都市構造と周辺土地利用計画の変化に関する研究」
- 齊藤 蓮 「非線引き都市における大規模建築立地に伴う周辺土地利用への影響に関する研究」

昇任

この4月に教授に昇任しました。本学に赴任して19年、学生諸君や教職員の方々と取り組んだ研究や教育活動の成果に評価が得られたことをうれしく誇りに思うとともに、皆様に感謝しています。これからも安全・安心な社会を目指して、恩師を目標に、従藍而青を心得として研鑽していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



(建築構造学研究グループ 菅野秀人)

OB・OG 紹介

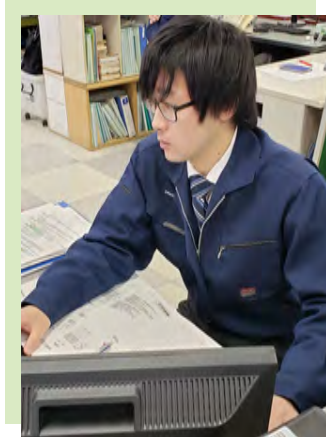


皆様、こんにちは。16期生の西田昂平と申します。この度はこのような機会を頂きありがとうございます。私は現在、建設コンサルタント業界で働いております。弊社は小さな組織でありながら、ワンストップサービスを強みとし、建築・土木・造園設計、都市計画、測量など幅広い業務を行っております。その中で私は都市設計部に所属し、戸建住宅や商業施設の造成設計と開発許認可等の申請手続き業務を行っております。本業務は、(1)建築や土木、測量などの幅広い知識、(2)法律・条例等を読み解く力、(3)行政やクライアントと打合せを行うコミュニケーション能力が必要です。

特に印象深かったのは、入社3ヶ月目に大手不動産会社の戸建住宅の造成設計・開発許認可業務を担当したことです。都内での小さな開発でしたが、多くの法律・条例の規制区域に該当し、それらをクリアしなければなりません。はじめは行政協議もままならない状態であり、また道路やインフラ、擁壁の設計では多大な時間を要しました。しかし納期までに、クライアントの満足いくものをつくらなければなりません。先輩方のご指導の下、試行錯誤を重ね、何とか開発許可を取得することが出来たのは良い思い出です。ハードな業務ですが、住む方々の生活に欠かせない基盤をつくっていることに誇りを感じております。

また本業の傍ら、より住民に寄り添ったまちづくりに関わりたいと思い、他部署のプロジェクトである住民主体のまちづくり協議会にもスタッフとして参加しました。米軍基地の近くという外国人居住者が多い地域で、住民の方々からは主に、①国際的なまちなみの形成、②防災・防犯性の強化、③多国籍交流を促すイベント開催等の意見が出され、自分のまちをより良くしていきたいという強い思いをじかに感じる事が出来たのは、とても良い経験になりました。

将来は建築と土木の設計が行える力をつけていくとともに、多角的な視点から今後もまちづくりに関わっていききたいと思います。



(16期卒業生 株式会社セット設計事務所 都市設計部開発設計室 西田昂平)



写真コンテスト 佳作々品

「養浩館庭園」

撮影者：山口邦雄



福井藩主松平家の別邸。清らかな水面に数匹の鯉が流れ、日本画のようなシーンを見ることができました。(福井県福井市)



「上野恩賜公園」

撮影者：樋口真由

東京を代表する桜の名所で3月下旬から4月上旬が見頃。公園内には800個のぼんぼりが灯され、夜桜も堪能できる。(東京都台東区)

「天王寺公園」

撮影者：関根萌



明治42年に開設された、長い歴史を持つ市立公園。起伏に富んだ園内には、旧住友家の名園慶沢園や茶白山、市立美術館がある。(大阪府大阪市)

編集後記

多くの皆さまのご協力により、このような事態にも関わらず、無事に23号目を発行することができました。ご協力頂いた皆さまに感謝申し上げます。次回も、このメンバーでゼミ内外の活動を発信していきますので、今後ともご愛読のほどよろしくお願い致します。
(2020.05.13 NL編集部) 関根萌 樋口真由 山口邦雄

URPS 編集部

〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4

秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科

☎: 0184-27-2053 e-mail: yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp

担当 山口 邦雄